

～ 初めての出会い ～

子ども達と一緒に、絵の具を溶かして準備をすると興味津々です。絵の具と筆、画用紙を置き、何をするかは指示はせずに見守りました。

すぐに絵の具を流し始める人、触れることに警戒する人もいます。友人の様子をじっと見つめて、動き始めます。筆で描いてみて手に色が付くたびに大人に見せ、洗いに行きます。絵の具を混ぜる、移し替える、容器を重ねる、など、やりたい事に没頭していく人もいます。

途中で着色した澱粉のりを出しました。指先で少し触ってみます。大人が手に塗って見せると、触り始めます。手の平に塗ってあげると見つめて考えています。初めての体験に悪い気はしていないようです。握って音がする事に気づきます。

大人は言葉少なく見守ることで、子ども達が自分で考え気づいていきます。動かない子も考え、情報処理に時間がかかっているだけかもしれません。急かさず見守っていると、自分のタイミングで動き出します。あの色が欲しい、あれがやりたい、言葉は無くても、意思を持って行動しているのが見えてきます。

いろいろな感触を体験をすることは、この時期大切な事です。触れることで体験の幅を広げていきます。触って世界を確認していきます。

初めて出会う人や物に対して、まずは周りの様子を見してみる。道具を介して関わり、徐々に近づいて触れてみる。1歳の彼らには、勇気のいる事なのでしょう。振り向いた先に大人の見守る眼差しがあるだけで、安心して冒険できます。世界に主体的に関わり反応をインプットし、その物や人を知っていくのでしょう。

その行動や痕跡には、その子の心情が表現されています。それらを表現としてを受けとめていく事で、自分を肯定し、表現する喜びにつながっていくはずで。

大人は環境を準備する。言葉少なに見守り、何気なくお手伝いをする。初めての出会いを探求する彼らを、受けとめる覚悟が必要かもしれません。

